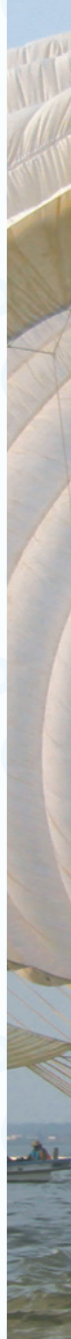


# 守り、伝えたい

## まちの宝 帆引き船と

## 霞ヶ浦で育まれた魚食文化



郷土資料館

霞ヶ浦の風物詩「帆引き船」は、上野駅のプラットホームやカーナビゲーションにも登場するなど、茨城県を代表する観光資源と位置付けられており、「帆引き船」発祥の地のかすみがうら市では、毎年7月から11月の日曜日に観光帆引き船を出航させ、多くの観光客でにぎわいを見せています。

平成26年に結成された霞ヶ浦帆引き船・帆引き網漁法保存会では後継者育成などの保存活用事業を、市郷土資料館ではさまざまな切り口で紹介する帆引き船をテーマにした特別展を、市内の生産者は帆引き船にまつわるお菓子や水産加工品などを販売しており、市をあげた「帆引き船」事業が取り組まれています。

今回は、改めて「帆引き船」のすばらしさとともに「霞ヶ浦の魚食文化」について紹介します。

### 折本良平の帆引き船の発明

「帆引き船」が発明される前の江戸時代の霞ヶ浦漁業は、大徳網漁(おほとくあみ)という数100メートル及び大型の漁網を20人ほどで引く漁法が中心でした。帆引き船を発明した折本良平(坂も時々、曳子として大徳網漁に携わっていた)と伝えられています。大徳網漁は、漁獲の割には、曳子が手に入る取り分が少なかつたため、少人数でも漁獲をあげられる漁法の開発を良平は考えついに成功したとされています。

その良平は、1人あといは2人で多くの漁獲をあげられる白魚漁の「帆引き船」を発明します。その後、柳沢徳太郎(志戸崎)が「帆引き船」を公魚漁へ、田上電次郎(行方市)がサツパ船で行っていた「帆引き船」を水押し船で制作し、次第で「帆引き船」は改良されていきました。多くの漁師が使い始めた帆引き船は、明治時代後半には、

ます。

### 帆引き船と坂本九

国民的歌手の坂本九の父および祖父がかすみがうら市出身であることはあまり知られていません。ましてや、祖父が明治時代に霞ヶ浦の漁業や水産加工技術を秋田県八郎潟に伝えて八郎潟漁業の功労者として位置づけられたことは、多くの人に知られていません。坂本九の祖父坂本金吉は、行商をする中、八郎潟では魚がたぐいにくい割には漁業が盛んでないとの情報を得ます。早速、霞ヶ浦の蝦漁で用いられていた蝦樽をもつて八郎潟に赴いたところ、つわさ通りの豊漁となりました。この「帆引き船」をはじめ多くの霞ヶ浦の漁法を順次、伝えていきました。そのほか、桜蝦や佃煮などの霞ヶ浦の水産加工技術も伝えていきました。坂本九は、このした祖父や父の足跡を確かめるべく、昭和45年に秋田県に赴きます。秋田県で坂本九は、家族から聞かされてきた祖父や父の思い出話を披露し、秋田県でお世話になった方々へのお礼も込めて「上を向いて歩こう」を熱唱しました。



伊勢湾の打瀬船模型

このように坂本金吉が江戸時代約600年も離れた霞ヶ浦と八郎潟が、「帆引き船」として近代漁法を開始し、地域を活性化させていくのには、

### 江戸時代の霞ヶ浦の魚

江戸時代における霞ヶ浦の魚食文化は、断片的ではありますが、わずかな史料に

霞ヶ浦200艘を超える姿を見せました(左)になります。



明治40年頃の霞ヶ浦での大徳網漁の様子(県立歴史館提供)

### 打瀬船と帆引き船の比較

「帆引き船」は、漁具・漁法による漁業分類では底曳網漁業の中の打瀬網(打瀬船)に含まれます。

見ることができま

す。水戸藩御留川の管理者である御川守を務めた鈴木家(小美玉市)には、水戸藩へ鯉を献上した史料が伝えられています。



献上鯉の古文書

水戸街道稻吉宿の本陣の夕食と朝食のメニューにも霞ヶ浦の魚が登場します。水戸藩の役人が、宿泊した際の夕食には、平鮎の焼き物と共に鱈、干鰯(里芋と栗の煮物)、蒟蒻(人参の和え物)、干瓢、人参、牛蒡、鶏肉、椎茸がのった平碗に筋子と豆腐の汁物に、飯が出されました。慶長9(1604)年に近江国坂田郡新庄から霞ヶ浦沿岸の麻生地方に国替となった麻生藩新庄氏は、霞ヶ浦名産の「焼わかさぎ」を大老酒井忠勝を通じ、三代将軍徳川家光へ献上したと伝えられています。これ以後、麻生藩ではわかさぎ「献上」を継続したことから、公方様が召し上がる魚(いさな)「公魚」に漢字で書くようになつていきました。麻生藩の新庄家では200年以上にわたる、良質な公魚を捕獲して「焼わかさぎ」として献上し続けていきました。

### 明治時代の水産加工技術の発展

明治時代に入ると霞ヶ浦沿岸地域では本格的な水産加工が始まり、桜蝦や佃煮が製造されていきました。桜蝦は、蝦を

## 観光帆引き船2016 スケジュール

### ◆通常操業【2艘】

- ▼操業期日 7月24日回〜11月27日回の毎週日曜日  
ただし、8月7日回、14日回を除く
- ▼受付場所 歩崎公園自由広場
- ▼出港予定時刻 7月〜10月…午後2時  
(受付午後1時〜1時半)  
11月…午後4時  
(受付午後3時〜3時半)
- ▼料金 一般…2千円/小・中学生…1千円/未就学児…無料
- ▼乗船予約 乗船希望月2カ月前の毎月1日午前8時半から(インターネットによる予約は毎月2日午前0時から)
- ※10人以上の団体は要相談

### ◆あゆみ祭り合同操業【4艘】

- ▼操業期日 8月16日(日)
- ▼受付場所 志戸崎漁港
- ▼出港予定時刻 1回目…午後2時(受付正午〜) 2回目…午後3時(受付正午〜)
- ▼料金 通常操業と同額
- ▼乗船予約 当日受付のみ

### ◆3市合同操業【8艘】

- ▼操業期日 9月18日(日)

- ▼受付場所 歩崎公園自由広場
- ▼出港予定時刻 午後2時(受付午後1時〜1時半)
- ▼料金 小学生以上…3千円/未就学児…無料
- ▼募集定員 30人(抽選)
- ※抽選結果は後日郵送
- ▼募集期間 8月1日(月)〜10日(日)(必着)
- ▼応募方法 官製はがきに必要な事項を記入し応募①名前②住所③自宅電話番号と携帯電話番号(当日の連絡先)
- ◎応募先 〒300-0192 かすみがうら市大和田562 観光商工課宛

### ◆特別企画 月夜の帆引き船 ライトアップ操業

- ▼操業期日 12月10日(日) ※雨天中止
- ▼出港予定時刻 午後4時(受付午後2時半〜3時半)
- ▼料金 3千円
- ▼募集定員 48人(抽選)
- ※抽選結果は後日郵送
- ▼募集期間 10月10日(日)〜20日(日)(必着)
- ▼応募方法 3市合同操業と同じ

### 問い合わせ・乗船予約先

- 平日…029(897)1111
- 観光商工課霞ヶ浦庁舎(休日…029(840)9880)
- 歩崎公園センター



HP QRコード





「市の財政が今どのような状態にあるのか」を市民の皆さんへお知らせ

# 財政事情を公表します!!

市では、年2回予算の執行状況を公表しています。

今回は、平成28年3月末現在の市財政事情をお知らせします。  
※割合は小数点第2位を四捨五入

政策経営課(千代田庁舎)

## 平成27年度予算の執行状況

(繰越明許分12億3658万7千円を含む)

一般会計予算 ▶ 198億6,159万6千円

一般会計とは、皆さんの暮らしに身近な仕事を行うための市の基本的な会計です。

特別会計予算 ▶ 113億7,622万2千円

特別会計とは、特定の事業を行う場合や特定の収入を特定の会計の支出に充てるために、一般会計とは区分して経理している会計です。

## 【歳入】

名称	収入済額	収入割合	
一般会計	152億3,447万4千円	76.7%	
特別会計	国民健康保健	53億4,448万8千円	90.5%
	後期高齢者医療	6億5,828万5千円	100.0%
	下水道事業	3億1,302万7千円	28.4%
	農業集落排水事業	7,708万7千円	18.1%
	介護保険	31億4,492万7千円	95.8%

## 【歳出】

名称	支出済額	支出割合	
一般会計	157億8,003万6千円	79.4%	
特別会計	国民健康保健	54億8,818万2千円	92.9%
	後期高齢者医療	6億4,365万9千円	97.8%
	下水道事業	9億9,543万5千円	90.4%
	農業集落排水事業	4億914万7千円	96.2%
	介護保険	28億6,359万1千円	87.2%

## 市税の納入状況

収入済額 ▶ 53億875万1千円

区分	収入済額	徴収率
市民税	24億8,081万1千円	89.5%
固定資産税	24億1,444万3千円	93.1%
その他市税	4億1,349万7千円	97.6%

## 地方債現在高の状況

地方債現在高 ▶ 316億1,351万5千円

地方債とは、特定の歳出に充てるために地方自治体が年度を越えて元利を償還する借入金です。

区分	収入済額
一般会計債	178億403万円
下水道特別会計債	72億2,569万3千円
農業集落排水特別会計債	28億3,296万円
水道事業特別会計債	37億5,083万2千円

## 基金現在高の状況

基金残高 ▶ 68億4,665万1千円

基金とは、特定の目的のために資金を積み立て、または定額の資金を運用するために設けられる資金または財産のことです。

区分	収入済額
財政調整基金	18億2,178万1千円
減債基金	18億9,834万2千円
その他基金	31億2,652万8千円

## 一時借入金の状況

一時借入金現在高 ▶ 0円

一時借入金とは、一会計年度内において歳計現金が不足した場合に、その不足を補うために借り入れる借入金のことです。

## 現在の霞ヶ浦の魚食状況

一昔前の霞ヶ浦沿岸地域では、近くの川魚屋や行商などが川魚を購入する以外に、タコ網や罟を仕掛けるなどで各家庭でも魚を捕っていました。そのため季節の川魚が食卓のほとんことが多く、海の魚や肉類などが貴重であったので、川魚は大切なタンパク源となっていました。捕獲

当時の霞ヶ浦沿岸地域では、西南戦争、日清戦争、日露戦争が次々と起こりましたが、軍需品として佃煮をはじめとした霞ヶ浦の水産加工品が注目されました。その後は、日常の副食品として一般家庭でも普及し、霞ヶ浦の味として認識されるようになっていきました。

霞ヶ浦での佃煮の始まりは、粗毛村(旧麻生町)の奥村吉郎兵衛が佃煮(東京都中央区)で習得した技術を、明治5年に霞ヶ浦の水産物で佃煮を製造することに成功したことがきっかけです。佃煮の白井勝蔵が麻生に移転して当地方の魚介を材料に佃煮を製造していったという説があります。いずれにしても明治時代に入って保存食を目的に佃煮製造が開始されたよう

甘塩で煮た後に天日で良く乾燥させ、筵(すし)したり臼で軽くついていたりして固い殻を取り去ったもので、明治23年に加茂村(かすみ)が市の飯島藤七が第3回内閣勲業博覧会出品して二等有功賞を受賞しています。賞状には「清国輸出適」



↑ 鯉の旨煮

霞ヶ浦の魚を食べて、沿岸地域を元気にしよう! 霞ヶ浦では、現在では50から60種類の魚が住むといわれています。この中で主に食されているのは、この一部の魚たちです。日本一の面積を誇る琵琶湖では、やはり50

が多い時には、べんけいと呼ばれる竹を編んだものへ刺して乾燥させ、保存食としていました。昭和15年の舟島村(阿見町)の家庭では、朝に鯉やわかさぎの煮つけ、昼にわかさぎの佃煮やえびの煮つけ、夜に焼きわかさぎや白魚の煮つけなど三食共に川魚が食卓にのぼった様子を示す記録があります。霞ヶ浦沿岸地域では、各家庭での自家消費のための小漁や沿岸地域に存在した名産品店や川魚店が販売されていた鮮魚や加工品を地域住民が購入することで魚食文化が形成されていきました。しかし、スーパーマーケットなどの大型店舗の進出や豊富な食材が手軽に手に入る時代となり、沿岸地域の各家庭で食卓にのぼる霞ヶ浦の魚は少なくなってしまいました。

## 帆引き船展示施設の愛称を募集します!

歩崎公園ビジターセンター駐車場内に、帆引き船の展示施設が完成しました。これは森林湖沼環境税を活用した「いばらき木づかい環境整備事業」により設置されたもので、全て茨城県産の木材を使った建物です。中にはエンジン付き小型漁船(旧桜井丸)・旧霞ヶ浦丸・旧大米屋丸の三艘が納められ、外からでも見学できます。



この展示施設の完成を記念して、施設の愛称を募集します。なお、愛称決定後には帆引き船展示施設に愛称の看板を設置します。  
※入選者には粗品をプレゼントします。

▶ 応募締切 7月20日(日)  
▶ 条件 帆引き船の展示施設であることがイメージできる名称で、施設への愛着と帆引き船へのさらなる興味関心を高め得るような名称をご提案ください。なお、文字数は5文字(漢字・ひらがな・カタカナは問いません)とします。

▶ 応募方法 メールでご応募ください。  
※タイトルに「帆引き船展示施設の愛称の応募」とご入力ください。  
※本文に帆引き船展示施設の愛称、氏名、年齢、住所、電話番号をご入力ください。



▶ 提出先メールアドレス shiryokan@city.kasumigaura.ibaraki.jp  
郷土資料館

種類以上の魚が生息していますが、霞ヶ浦よりも多くの魚が食の対象となっており、200種類にも及ぶ湖魚料理があります。一方で、水産庁のデータによると国民一人当たりの魚介類消費量は、年々減少の傾向にあります。また、食用魚介類の自給率は59%です。我が国の魚食文化の衰退は、消費者の低価格志向や簡便化志向が影響していると考えられます。

魚食文化の再興策が、全国各地で地方創生の観点から実施されています。「帆引き船の魅力」に、おいしい霞ヶ浦の魚を捕るための漁業文化と位置付けられてきたと考えています。市民の皆さんも是非、たくさん霞ヶ浦の川魚料理を食して、そのすばらしい魚食文化を多くの方々に広めていきたいと思います。